

がんについて正しく理解し、命の大切さについて主体的に考える生徒の育成

～コーディネーターとしての養護教諭の役割～

鹿児島県立曾於高等学校
養護教諭 實方 めぐみ

1 はじめに

本校は、「笑顔輝き 夢かなう 曾於高校」を校是に、平成26年度三校統合により開校した新設校で、現在全校生徒3学年5学科432名の学校である。今年度、本校は、令和4年度鹿児島県がん教育総合支援事業のモデル校として指定を受けた。

2 主題設定の理由

生涯のうち国民の二人に一人がかかると推測されるがんをめぐる状況を踏まえると、生徒ががんについて理解を深めることや命の大切さについて考える教育は、学校教育活動全体で積極的に推進することが求められている。

しかし、本校では、教職員ががんという疾病への知識や認識が不十分なことや、がん教育の進め方等に関する研修機会の不足が課題である。また、がん教育を推進するための計画や組織が整っていないこと、学校内外の調整等を行う推進役（コーディネーター）がいないことも課題である。

そこで、養護教諭がコーディネーターの役割を担い、教師の資質向上を図りながら、学校全体でがん教育を推進することを通して、がんについて正しく理解し、命の大切さについて主体的に考える生徒の育成をめざしたいと考え、本主題を設定した。

3 取組の実際

(1) がん教育の研修及び計画等の作成

ア がん教育に関する校内研修

県高等学校・特別支援学校養護教諭等研修会の資料等をもとに、がん教育の概要を伝えるための校内研修を行った。資料の準備、説

明は養護教諭が行った。職員に周知した主な内容は以下のとおりである。

- ・ がん教育の背景、必要性
- ・ がん教育の目標及び内容
- ・ 保健体育科におけるがん教育授業
- ・ 外部講師を活用したがん教育授業
- ・ がん教育を進めるに当たっての配慮事項

イ 計画の作成と役割分担

今年度、県がん教育総合支援事業のモデル校に指定されたことから、モデル校授業等研修会（公開授業を含む）を開催することになった。外部講師を活用した講義や授業を実施することになり、役割分担等を含めた計画を作成した。

「モデル校授業等研修会の役割分担」

	主な内容	分担
1	研修会の職員への周知、説明	校長、保A(保健主任)
2	研修会の案内作成、参加者の集約	教頭、養護教諭
3	研修会の総括、司会等	保A(保健主任)
4	医療関係者による講義	保B、養護教諭
5	ストレスマネジメント講義	保A(保健主任)、各担任
6	がん経験者による講義	保B、養護教諭
7	外部講師を活用した授業(公開授業)	保C、養護教諭
8	外部講師との打合せ等	各担当、養護教諭

※保A、B、Cは、保健体育科教諭

(2) 外部講師を活用した授業（保健領域）

ア 生徒の実態

授業の対象は、文理科2年生15人である。実態を把握するため、事前にアンケート調査を行った。

「生徒への事前アンケート（一部抜粋）」

質問項目	回答
がんの学習は健康な生活を送るために重要だ	そう思う(13) どちらかといえばそう思う(2)
がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ	そう思う(14) どちらかといえばそう思う(1)
あなたの周りにがんになった方はいますか	いる(0) いない(15)

アンケートの結果から、生徒は、がんの学習に関する意欲・関心は高いことが分かった。また、「あなたの周りでがんにかかった方はいますか」の問いに対し、全員が「い

ない」と回答した。しかし、学校に伝えたくない場合や、がんに限らず他の疾病に罹患し、つらい思いを経験している場合も考えられるため、配慮を怠らず、丁寧な言葉遣いで授業に臨むよう、担当教諭と事前確認を行った。

イ 授業の実際

授業は、担当教諭と外部講師のチームティーチングで行った。導入では、これまでの学習を振り返り、担任ががんに関する基本的な知識について確認を行った。

展開では、生徒が考えた講師への質問に対して、講師が直接、回答していく形で授業は進んだ。生徒は、真剣な眼差しで講師の話に聞き入っていた。

(3) 外部講師を活用した授業（総合的な探求の時間）

大隅地区内で、ストレスマネジメントに精通した先生がいらしたことから、がん教育と関連付けた講演をしていただいた。

ア 講師 近隣中学校長

イ テーマ

「がん教育とストレスマネジメント」

ウ 対象 全校生徒、本校職員、研修会参加者



[総合的な探究の時間における講演会]

講演会後は、教室に戻り、事前に配布していた共通の指導案をもとに、各担任が、県より6月に配布されたパンフレットを活用し、がんの基礎知識についての指導、確認を行った。

(4) 医療関係者による講演会（オンライン）

科学的根拠に基づいたがんに関する基礎知識を学ぶため、医療関係者による講演会を設定した。罹患率が高い「乳がん」の基礎知識

について、分かりやすく説明をいただいた。

ア 講師 医療関係者（がん専門医）

イ テーマ

「がん教育に取り組む上で知ってもらいたいこと～乳がん領域から～」

ウ 対象 本校職員、研修会参加者



[医療関係者による講演会]

4 成果と課題

(1) 成果

- 養護教諭がコーディネーターの役割を担い、がん教育に関する研修会等の計画や業務分担の作成、学校内外との調整等を行うことで、学校全体でがん教育に取り組もうとする方向性が見えてきた。
- 外部講師（がん経験者）を活用したがん教育授業を行ったことで、生徒は、がんについて正しく理解し、命の大切さについて深く考えることができた。

(2) 課題

- 本年度行った取組を継続、充実させるために、がん教育を教科等横断的な視点で捉え、保健体育科に限らず、LHR、総合的な探求の時間等と関連付けた取組に発展させる必要がある。
- 外部講師を活用したがん教育を推進するに当たり、予算の確保が必要である。

5 おわりに

高等学校におけるがん教育は、始まったばかりであるが、大変重要で意義のある教育の一つであると実感している。今後もがん教育の推進に向けて、学校全体で連携を図り、様々な取組を行っていききたい。